

弘前大学の育成新品種!

切った瞬間の驚き!
これまでのりんごになかった…

紅の夢

Kurenai no yume



農商工連携ビジネスの可能性を拓く
“果肉まで赤いりんご”「紅の夢(くれないのゆめ)」。

「紅の夢」とは。

2010年品種登録/登録番号19259

来歴

弘前大学 藤崎農場育成品種。(育成者:塩崎雄之輔名誉教授)。
親品種は、「紅玉」×「赤肉親系統1(エターズゴールドとラベルに記載された樹)」。

特性

本品種最大の特徴は果肉が淡紅色に着色することで、渋味がないため生食が可能です。外観は円から楕円形、果皮は濃い暗赤色、重さは「紅玉」より一回り大きな300g程度。糖度約13%、酸度約0.9%。酸味が強く「紅玉」と似た食味で、収穫期を早めれば加工用に、遅らせれば蜜も入り生食で美味しくいただけます。普通冷蔵で約3カ月貯蔵できます。

S遺伝子型

S3S7 (つがる、未希ライフと同一)

収穫期

青森県では10月下旬~11月上旬



弘前大学 藤崎農場では1981年からりんごの育種プロジェクトを進めており、2010年に「果肉まで赤いりんご」の第1号として「紅の夢」を品種登録しました。これまでも「赤い果肉のりんご」はありましたが、野生種に近く生食には適さないものや、研究段階で生産量の少ないものばかり。栽培段階にあるのは弘前大学藤崎農場の「紅の夢」だけです。今後は多彩な商品開発やブランド化を目指していきます。



「紅の夢」の可能性を伸ばすべく弘前大学の研究は続いています。

私たちの研究は「栽培現場」が基本。生産者の皆さんが安心して「紅の夢」を栽培できるよう、科学的裏付けのある技術を開発します。果皮に発生する斑点状のスポットは発生を完全に抑えられるようになりました。現在は安定した果肉着色が得られる栽培方法を確立しています。また、内部着色を非破壊で検査する方法やカットりんごを長期間供給するための貯蔵方法も開発中です。さらに、赤い果肉の持つ機能性にも着目し、「消費者」の皆さんに心と身体の両面で健康になってもらおうと考えています。「紅の夢」のもとに多くの人々の力を結集し、「紅の夢」につながるみなさんにしあわせをお届けできるよう努力して参ります。



品種登録を待つ HFF60

後続の赤い果肉のりんご「HFF60」「HFF33」も、弘前大学で品種登録に向けて準備中です。

●「藤崎農場育成系統 HFF60」

黄色の果皮を通して果肉の赤色が薄いピンク色に見える桃のような可憐なりんごです。果肉が赤く色づくのは「紅の夢」と同様ですが、酸味が抑えられているので生食しやすくなっています。果皮の黄色と果肉の赤のコントラストは彫刻しても美しいことからディスプレイにも適しています。青森県では9月下旬～10月上旬に収穫され、重さは350g程度になります。

●「藤崎農場育成系統 HFF33」

果皮が「千秋」のように縞模様になく赤く色づく、果肉まで赤く着色する系統です。酸含量が0.4%と「ふじ」と同程度なので誰もがおいしく食べられます。白い果肉の品種と組み合わせて紅白のカットりんごの販売を目指しています。青森県では11月上旬～中旬に収穫され、重さは350g程度になります。

「紅の夢」から生まれた加工品は、天然の美しいピンク色が魅力です。

「紅の夢」の加工品には着色料が必要ありません。自然の恵みそのまま美しい赤色が得られます。

ジュースやジャム以外にも「洋菓子」「ヨーグルト」「ドレッシング」など、商品開発の可能性が広がっています。

水分やpHを調整することで発色もコントロールでき、アイデア次第でこれまでのりんごのイメージを覆す商品開発も可能ではないでしょうか？



青森の「すてき」を全国に、そして世界に！

青森と言えばなんたってりんご！その大産地を支える使命をもって弘前大学農学生命科学部は設立されました。世界一のりんご品種「ふじ」の誕生から70年。私たちはその同じ土地から「第2のふじ」となりうる品種を生み出すことを目指して努力を続けて行きます。地域の人々と協力しながら、また、消費地の人々と繋がり意見を交換しながら「紅の夢」を中心に、各界がこれまでにない連携を図っていきます。最近の言葉では「第6次産業化」とでもいうのでしょうか？「紅の夢」を通して青森の「すてき」を全国に、そして世界に発信します。



「紅の夢」ジャム

農場実習で学生が作るジャムは、果皮を使わなくてもピンク色が美しく人気が高い商品です。従来のりんごジャムと色と舌触りの違いをお楽しみください。

「紅の夢」ジュース

ジュースもピンク色が際立つ美しい色合いが人気です。そのまま飲んでも、また透明なお酒で割れば、お祝いの席にも相応しい特別なカクテルになります。

「紅の夢」カットりんご

地元青森の加工会社と共同で開発を進めています。大都市の駅の自動販売機やコンビニエンスストアで、紅白セットにして販売することを目指しています。

協議会を設立し、普及の準備を進めています。

「紅の夢」は決して作りやすい品種ではありません。生産量も限られており、今すぐに全国的な商品展開などともできません。りんごは、苗木を植えてから結実までに最低3年、安定生産できるまでは10年が必要です。そのため、生産、流通、販売、商品化などそれぞれのステージに立つみなさんが苦勞を分け合い、我慢を共有しながら将来の「夢」の実現を目指す必要があります。現在私たちは、若手を中心に農業者・種苗業者・加工業者・行政・大手メーカー、研究者などを集めて協議会の設置準備を進めています。様々な立場の人々が交流する中で、「紅の夢」をブランド化し、新たな商品を生み出したいと考えています。

「紅の夢」公式ホームページ <http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/kurenainoyume/>

【お問い合わせ】 弘前大学農学生命科学部 附属生物共生教育研究センター 藤崎農場 <助教> 松本 和浩 ☎0172-75-3026 E-mail: k-matsu@cc.hirosaki-u.ac.jp